

平成30年度 学力向上を図るための全体計画

墨田区立両国小学校
校長 平林 久美子

【平成30年度 墨田区学習状況調査の結果】

全国平均正答率の+10ポイント以上◎ +5ポイント以上○ -5ポイント以上▼

教科	観 点	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
		本校平均正答率	本校平均正答率	本校平均正答率	本校平均正答率	本校平均正答率
		区平均正答率	区平均正答率	区平均正答率	区平均正答率	区平均正答率
		全国平均正答率	全国平均正答率	全国平均正答率	全国平均正答率	全国平均正答率
国 語	話す・聞く能力	79.80	79.5	81.20 ◎	63.8	71.60
		74.8	82.4	71.4	63.5	65.7
		71.3	80.8	67.0	60.3	64.3
	書く能力	88.90	59.5	78.80 ◎	64.10	72.0
		82.5	60.6	65.4	62.9	66.9
		79.4	58.0	62.6	57.4	68.5
	読む能力	76.10	69.70	81.20 ◎	81.10	79.20
		71.8	67.7	69.1	78.6	73.0
		69.0	63.8	64.5	74.9	74.0
	言語についての 知識・理解・技能	95.3	82.4	80.20	79.8	73.1
		93.7	85.4	73.3	78.6	70.2
		94.6	84.3	73.8	76.4	69.0
算 数	数学的な考え方	77.60	67.5	74.10	63.10	54.1
		72.3	68.7	69.1	61.0	52.8
		67.8	65.5	66.5	57.5	53.0
	数量や図形について の技能	90.30	80.4	85.20	65.9	69.2
		87.3	82.2	80.9	67.8	67.4
		85.0	80.5	79.8	66.1	69.9
	数量や図形について の知識・理解	90.30	72.4	81.70	65.1	72.0
		87.3	73.5	77.5	66.5	70.8
		84.7	70.8	74.7	64.4	72.7
理 科	科学的な思考・表現			71.50	67.0	66.0
				67.3	63.6	61.0
				64.0	66.0	68.6
	観察・実験の技能			87.8	79.1	62.8 ▼
				84.3	74.6	62.2
				85.9	75.5	72.5
自然事象について の知識・理解			79.30	72.1	65.9 ▼	
			75.5	64.9	63.5	
			73.4	73.9	70.9	
社 会	社会的な 思考・判断・表現			73.20 ◎	63.1	66.8
				65.4	59.2	59.7
				62.4	59.1	62.7
	観察・資料活用 の技能			77.90	65.40	65.5
				71.3	61.3	61.1
				68.5	60.1	64.0
社会的な事象について の知識・理解			72.9	67.2	64.1	
			69.8	64.5	59.9	
			68.5	62.9	63.1	

＜前年度比較＞ 国語は得意。算数が向上。理科は一進一退。社会科がやや下降。

- ・全体 ◎3→4、○19→20、▼2→2
- ・国語 ◎3→3、○10→9
- ・理科 ○0→2、▼1→2
- ・算数 ○4→7、▼1→0
- ・社会 ◎0→1、○5→2

【全国学力・学習状況調査結果概要】(第6学年) ◎○○▼の基準は区の調査と同様

教科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
本校平均正答率	81 ◎	62 ○	67	60 ○	68 ○
東京都(公立)平均	74	57	67	55	62
全国(公立)平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

1 学力向上に関する平成29年度後期から平成30年度前期の取組と成果

- ・家庭学習（宿題）の提出状況は、第4学年までは95%から100%です。両国小の家庭の教育力の高さです。しかし、第5学年以上になると、未提出者が固定化し、提出率が90%を割るときもあるようです。各学級では、担任が休み時間や放課後に必ず宿題をやらせています。
- ・社会科を中心とした問題解決型の学習が定着し、児童が自ら「分からないこと」「知らないこと」を出し合い、学習問題をつくれるようになっていきます。第6学年では、平成30年7月に理科を中心としたプログラミング学習を実施しました。児童から、「失敗してもその原因を仲間と追究し、次の方法を話し合っ決めてるのは自信に繋がりました。」という感想の発表がありました。
- ・平成28年度9月より第3学年（現5年）を対象に、平成29年度9月からは第2学年も対象に加え（現3年、現4年）、放課後学習クラブを実施しました。昨年度は、第4学年（現5年）に大きな成績の伸びが見られましたが、今年度は現状維持程度に留まりました。
- ・国語辞典、地図については、「両国小まなびスタンダード」の家庭と学校との連携により、生活に身近になっています。机に辞書袋を下げいつでも引けるようにするなどの環境整備や、毎日1回は辞書や地図帳で調べる活動を設けるなどの工夫は、全学級に広めたいものです。
- ・平成29年4月に、本校の若手教師の提案で「学力向上委員会」を位置付けました。算数と漢字のふりかえりシートを全学年で活用できるような環境を整え、夏季休業中には、全学年で「算数道場」を3日間開催し、学年を超えて多くの教師が指導に当たりました。学力向上を図るための実践を全校体制で取り組めるようになってきました。
- ・昨年度は、机間指導中の評価と指導を重点に授業改善を図りました。個に応じた的確な指導や意図的・計画的な発言の指名等が多くの学級で展開され、授業の後半で学びが深まる授業が増えました。
- ・全学年で「朝トーク」という対話指導を実施し、話題から逸れずに交互に話す対話活動を重視しています。系統的な指導により、より思考を深められる活動に発展させたいところです。

2 平成30年度後期の課題

(1) 平成30年度区学習状況調査結果から見た両国小の児童の課題

- ① 全学年において、「漢字を書く」問題の点数が、他の分野よりも低くなっています。全ての学級では漢字の宿題や漢字テストを熱心に行っています。学校でも家庭でも、既習漢字を用いる習慣を身に付け、生活の中で使えるようにする必要があります。
- ② 第5・第6学年の理科が、他の教科に比べて劣ります。日常生活や体験での気付きと学習内容を関連させて考える力や、目的に応じて実験を計画し問題解決する力等の育成が必要です。例えば、昨年第5学年で企業と連携し「ふりこ」の実験授業を実施。児童は楽しく学び興味をもちましたが、ふりこの実験で適切な対照実験を選ぶ問題の正答率は低い結果となりました。

(2) 教師の授業改善における課題

- ① 平成29年度の1年間で、児童が考えを書く間の机間指導の質が向上しました。引き続き、児童の実態把握と評価、指導・助言、指名計画や授業の流れの修正等の技能向上に努めます。
- ② 児童の発言をどのように受け止め、他の児童の考えと関連させて発展させるかという、教師の対話能力、コーディネート力の向上も、引き続き課題です。児童に気付かせ、個々の考えを繋いで「深い学び」に導くことができる、そんな授業を目指しています。
- ③ 児童が、複数の知識や体験を結びつけて考えたり、既習事項を場面に応じて活用したりできるように、教師が授業の中で「繋ぐ」「気付かせる」工夫をする必要があります。
- ④ 第1・第2学年のうちに、正しい姿勢で、鉛筆・消しゴム・下敷きなどを正しく使って学習する習慣を身に付けることが大切です。やって見せて繰り返し指導することを、家庭と学校で連携して進めてまいりましょう。

3 平成30年度後期における学力向上に関する具体的な取組

- 特色ある学校づくり推進校として、「主体的・対話的で深い学びを展開する学校づくり」を研究主題とし、副主題を「教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントを通して」とし、カリキュラム・マネジメントに取り組んでいます。児童の学習効果を高めるための教科・領域を関連させたカリキュラムをはじめ、時間割や時程についても検討します。
- 学年が上がるにつれてD・E層が増えている国語科以外の教科について、「ふりかえりシート」を全学年で、授業・家庭学習・補習等で繰り返し実施します。特に算数は、夏季休業中の「算数道場」、9月からの「放課後学習クラブ」において、担任以外にも、内部・外部の指導者が加わり指導しています。
- 国語科のD・E層が各学級25%いる第3学年に対しては、国語科「書く能力」「言語に関する知識・理解・技能」が不十分な児童に対し、「校長先生の国語教室」を実施します。日常生活に関わることを正しい文字で書く学習を積み重ね、一冊ノートを完成させます。
- 「国語が得意」を学校の強みに、引き続き読書を始めとする言語活動の充実を図ります。
 - ・百人一首大会（9月・1月） ・短歌・俳句・川柳コンクール等への参加
 - ・漢字検定（1月） ・詩の朗唱と朝トーク（通年）
 - ・協働的学びを促す「交流」「共有」の重視 ・考えを書く活動の重視
 - ・学校図書館の環境の充実 ・ボランティア（通年）と教師（年2回）による読み聞かせ
 - ・図書館を使った調べる学習コンクール取組の推奨と手引きの作成
- 国語辞典と地図を日常的に活用する環境を学校と家庭の両方で整えるようにします。
 - ・全ルビの国語辞典の使用を第1学年から推奨しています。
 - ・学校周辺の地図、墨田区地図、地図帳など、いつも身近に地図のある生活をします。
- 私たち教師は、互いに得意な分野や研究会等で学んだことを伝え合い、子供たちの学力向上のために努力を続けます。全員が講師であり、全員が謙虚に学ぶ受講者でもあります。
- 理科の観察・実験などに関する基本的な技能を身に付け、児童自らが問題解決の力を養うことができる理科の授業を目指します。理科に関する研修を増やすとともに、理科室の環境整備や教材の充実にも努めます。
- 教師と児童の共通の課題として、授業の中で「相手の言葉を受けて返す」という音声言語の機能に着目して、よりよい授業を展開できるように授業改善の共通テーマとします。
- 平成32年度から全面実施される新学習指導要領についての理解を深めるため、昨年8月末に校内で研修を実施しました。今年度も、移行措置の確実な実施に向け、同時期に研修を行います。
- 昨年度、脱いだ靴を揃える習慣、授業中の「足裏ぺったん」の姿勢、箸と鉛筆の正しい持ち方の指導等を全学級で徹底指導することを目標の一つにしましたが、十分ではありませんでした。今年度は、4月から取り組んでおります。各家庭での御協力が必要ですので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 児童自らが自分の学びの状況を理解して主体的に学習を進める必要があります。その第一歩として、テストやノートの誤答を、自分で直す習慣を身に付けさせたいと考えます。児童への声掛けなど、御協力ください。

※ 児童の学習状況や個性に応じて、指導方法や取り組み方などを配慮しながら指導してまいります。

【学力向上委員会提案 平成30年度両国小 学力向上6つのチャレンジ】

- ① 必ずテスト直しをすること
- ② 辞書をいつも引けるようにすること（3年生以上）
- ③ 教室や廊下に地図を置いて活用すること
- ④ 理科実験OJTで教師が理科好きに
- ⑤ 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の作成と活用
- ⑥ 月に一度は「ピンポイント学習」で苦手分野を克服

4 両国小まなびスタンダード（平成28年9月策定）

本校の教師は、初任者から教職経験30年以上のベテランまでおります。経験や研究歴も様々です。10年ほど前に団塊の世代の大量退職時代を迎え、現在は全国的に若い教師が多くなっており、本校も例外ではありません。

そこで、児童の学力向上を目指すためには、学校全体で一貫性のある生活・学習習慣の指導方針を明確にすることが必要になってきています。子供たちにとっても、「両国小まなびスタンダード」があることで、学習に向かう姿勢がどの学級でも定着することは、よいことだと考えます。

一昨年度策定した「両国小まなびスタンダード」をどの学級でも定着させることが、昨年度からの重点目標であることを、全員で共通理解したうえで教育活動を進めております。

昨年度より、4月の始業式の日、全家庭に「両国小まなびスタンダード」のプリントを配布し、各教室に「はい、立つ、です」と「足裏ぺったん」のポスターを掲示しています。また、「家庭学習スタンダード」の③④の実施が広がっているようです。家庭と学校が協働で学習環境を整えることで子供は学び易くなります。国語辞典や漢字辞典が付箋紙でいっぱいになっている児童、すぐに地図帳で調べる児童、本を小脇に抱えて登校する児童等を多く見かけます。学校でも、辞書袋を机の横のフックに掛けてすぐに活用できるようにしている学年があり、学力が向上しています。

両国小の子供たちの学力向上を目指し、私たち教師は、児童の人権を尊重し、子供たちに負けないくらい真摯に学び続けます。

(1) 授業編

両国小 授業スタンダード

- ① 「『はい』（挙手、返事）、立つ（立って発言）、『です。』（丁寧語で話す）」を守りましょう。
- ② 次の授業の準備をしてからトイレ、水飲み、遊びをし、時計を見て着席しましょう。
- ③ 授業中は、全員に聞こえる声で「私は・・・です（ます）。」と主語を入れて話しましょう。そして、結論を言ってから理由を必ず加えて話すようにしましょう。
- ④ 先生や友達の話最後まで黙って聴き、必要なことを質問しましょう。
- ⑤ 「分からないこと」「疑問に思うこと」を伝え合い、一人でじっくり考えたり、友達と意見を交流したりすることを通して、学びを深めましょう。
- ⑥ 習った漢字は必ず使うようにしましょう。忘れたら、教科書や国語辞典で調べましょう。

(2) 家庭学習編

両国小 家庭学習スタンダード

- ① 宿題は必ずやりましょう。
(2時間やっても終わらなかった場合は、心と体の健康のためにやめて、自分で先生に言いましょう。)
- ② テレビや音楽を消して、時間を区切って集中して学習しましょう。
- ③ テレビの横に国語辞典と地図帳を置いて、心の中の「？」を自分で解決しましょう。
- ④ 公立図書館等をじょうずに使いましょう。家でも本を読みましょう。
- ⑤ 自分で決めたことは、最後までやり通しましょう。困ったときには、大人に相談しましょう。
- ⑥ 習った漢字は必ず使うようにしましょう。忘れたら、教科書や国語辞典で調べましょう。

【保護者の皆様にお願い】

「大人になっても分からないこと、知らないことがいっぱい。だから、生きるって素晴らしい！ということをお子さんに笑顔で伝えてください。「こんなことも知らないの。」と言ったり、知らないことを取り繕ったりせずに、調べる面白さや分かる楽しさを伝えてください。私たち大人が、子供たちと一緒に楽しむこと、面白がること、本気で不思議に思ったり興味をもったりすることが大切です。様々な問題を自分で解決して生き抜く力、知識を活用する力が学力です。

お子さんが25歳になったとき、どんな大人になってほしいと思いますか？